

有明海・八代海等総合調査評価委員会
水産資源再生方策検討作業小委員会(第2回)
海域環境再生方策検討作業小委員会(第2回)

福岡県有明海区における
アサリ、タイラギ増殖の取組

平成31年1月23日

福岡県

福岡県有明海区における アサリ増殖の取組

1. 資源の現状

稚貝の発生場所と発生量が年により異なるため、資源変動が大きく漁獲が不安定

稚貝の減耗防止対策、産卵母貝の保護、育成等による安定した資源の維持が必要

2. 増殖策

1) 漁場整備

- ・ 覆砂

2) 保護区

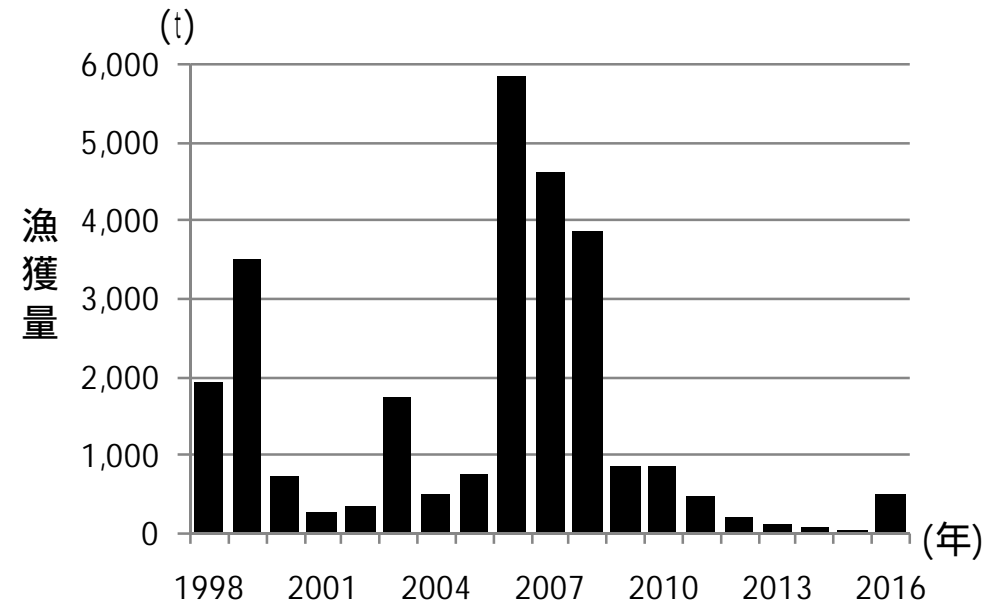
- ・ 産卵成貝の保護、育成

3) 移殖放流

- ・ 高密度発生域の密度調整、成長促進

4) 天然採苗

- ・ 着底基質設置による資源添加



福岡県有明海区におけるアサリ漁獲量の推移

(出典: 農林水産統計)

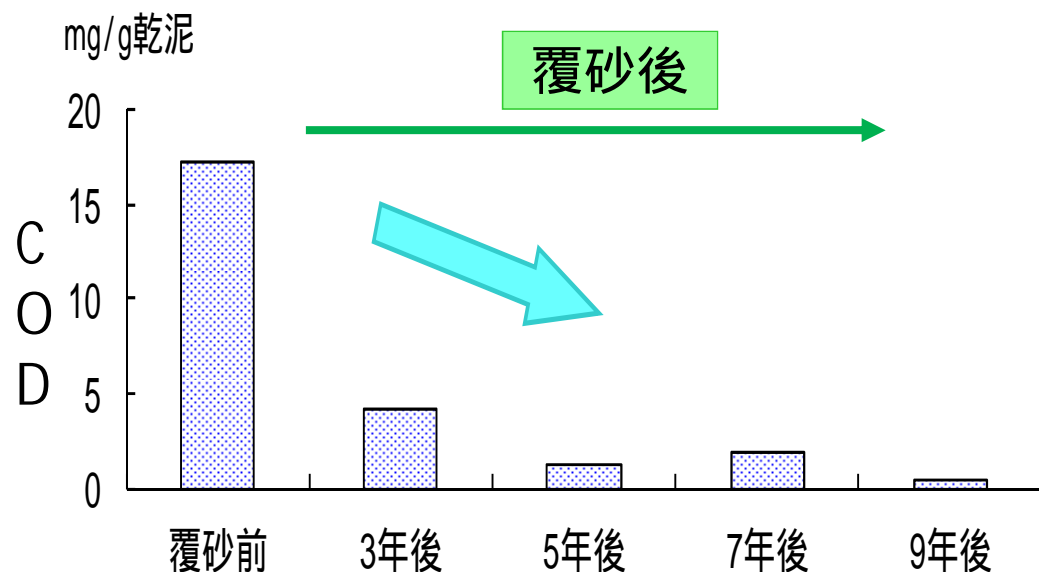
2. 増殖策

1) 漁場造成 (覆砂)

【目的】

底質の悪化した漁場に覆砂を実施することで底質環境を改善し、二枚貝類の増殖を図るとともに、干潟の環境浄化機能を回復させる。

覆砂漁場におけるCODの推移



覆砂域に発生したアサリ稚貝



・平成26年度の覆砂漁場を中心に、これまでみられなかった稚貝が大量発生 (H27.10 有区20号で 最大10,938個/m²)

2. 増殖策

2) 保護区 (成貝の保護、育成)

保護区の設定

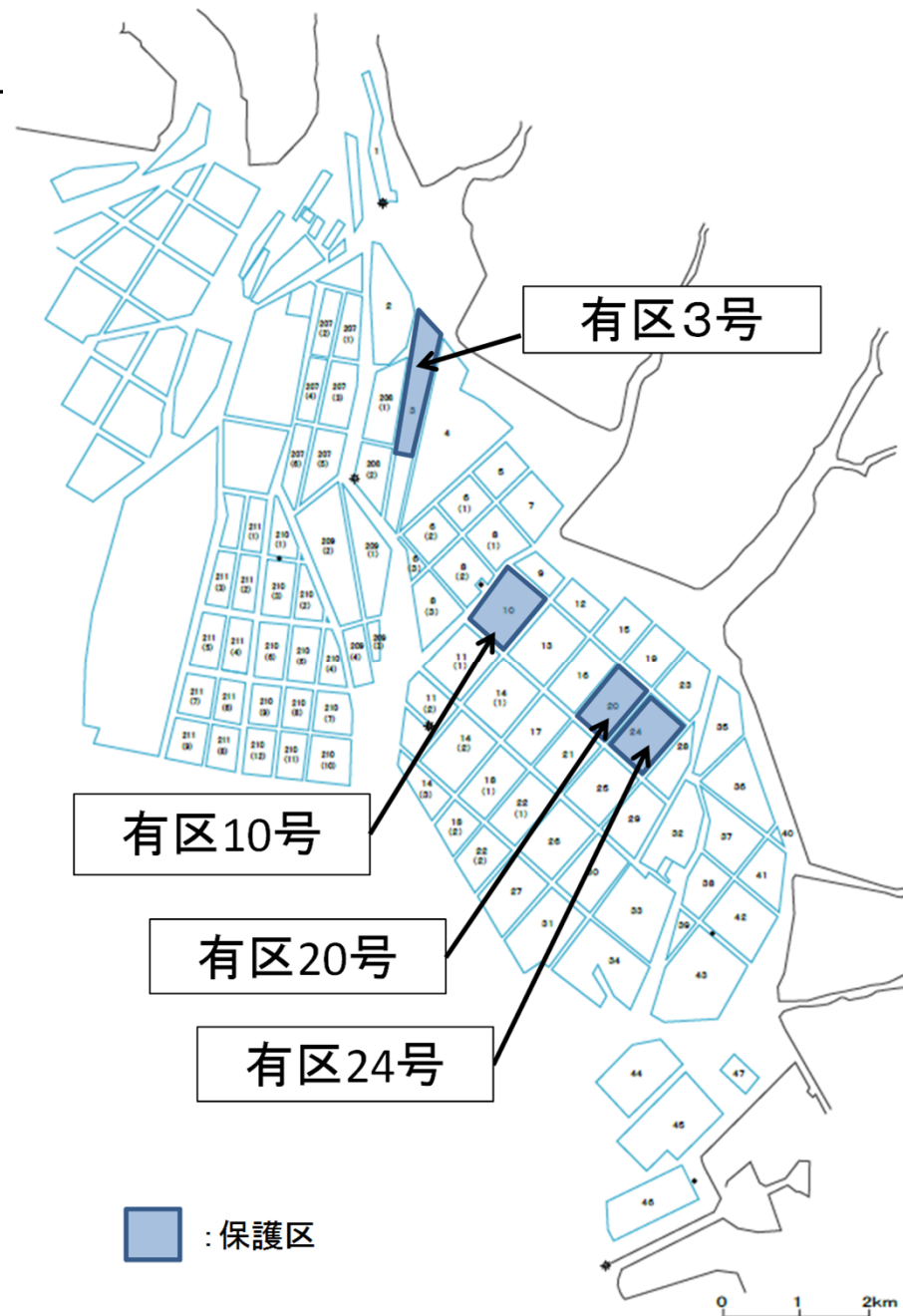
・産卵母貝を確保するため、アサリの生息状況(密度、サイズ)等を考慮して

共同漁業権行使規則に基づく採捕の制限

漁業調整委員会指示による採捕の規制

保護区の期間

場所	期間
有区 3号	平成26年12月～
有区10号	平成26年12月～
有区20号	平成27年11月～
有区24号	平成30年 9月～



保護区 の 場所

2 . 増殖策

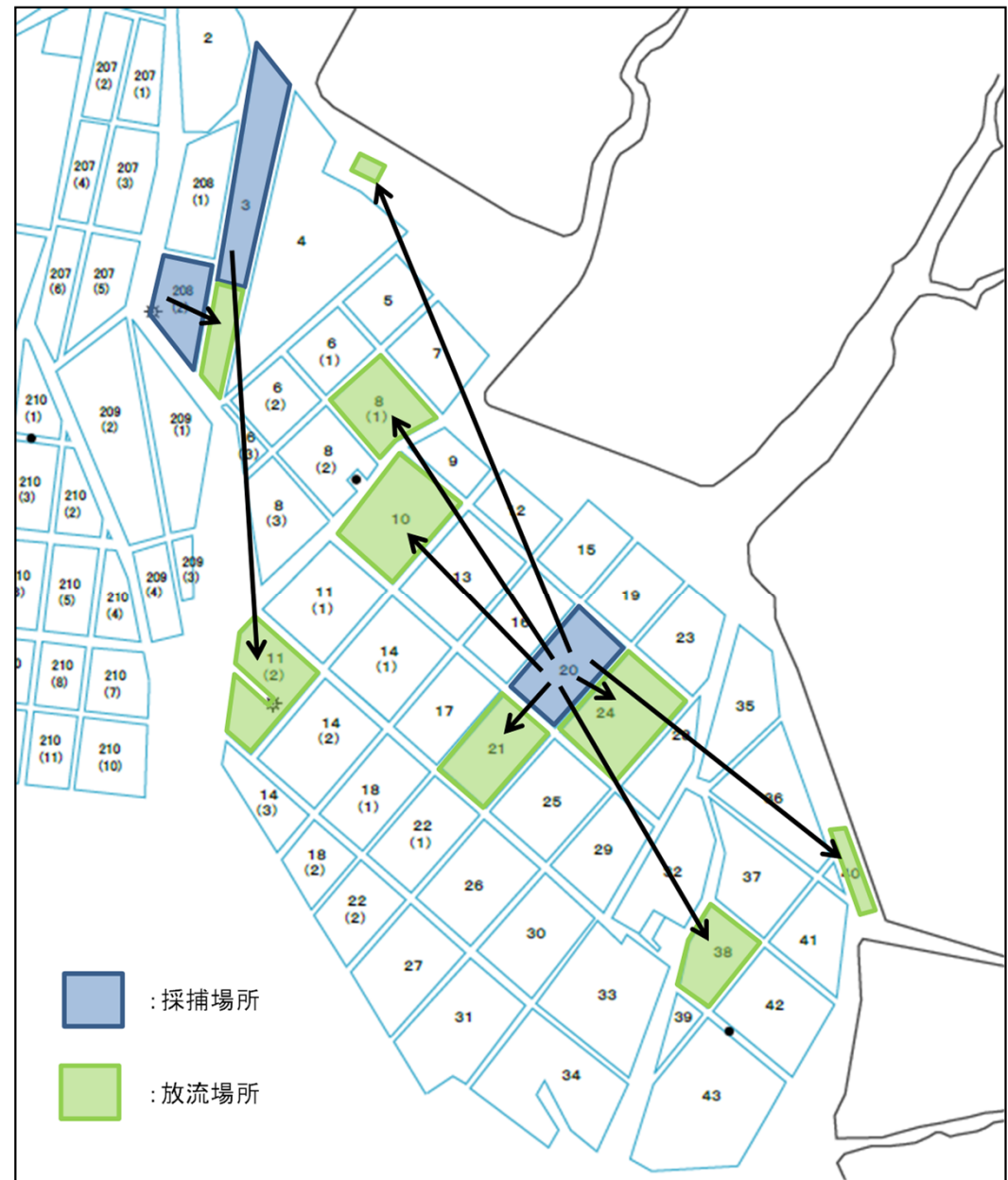
3) 移殖放流

高密度に発生したアサリの
間引き移植により適正密度
を維持

平成27年11月～29年6月の
間で約802tを移殖



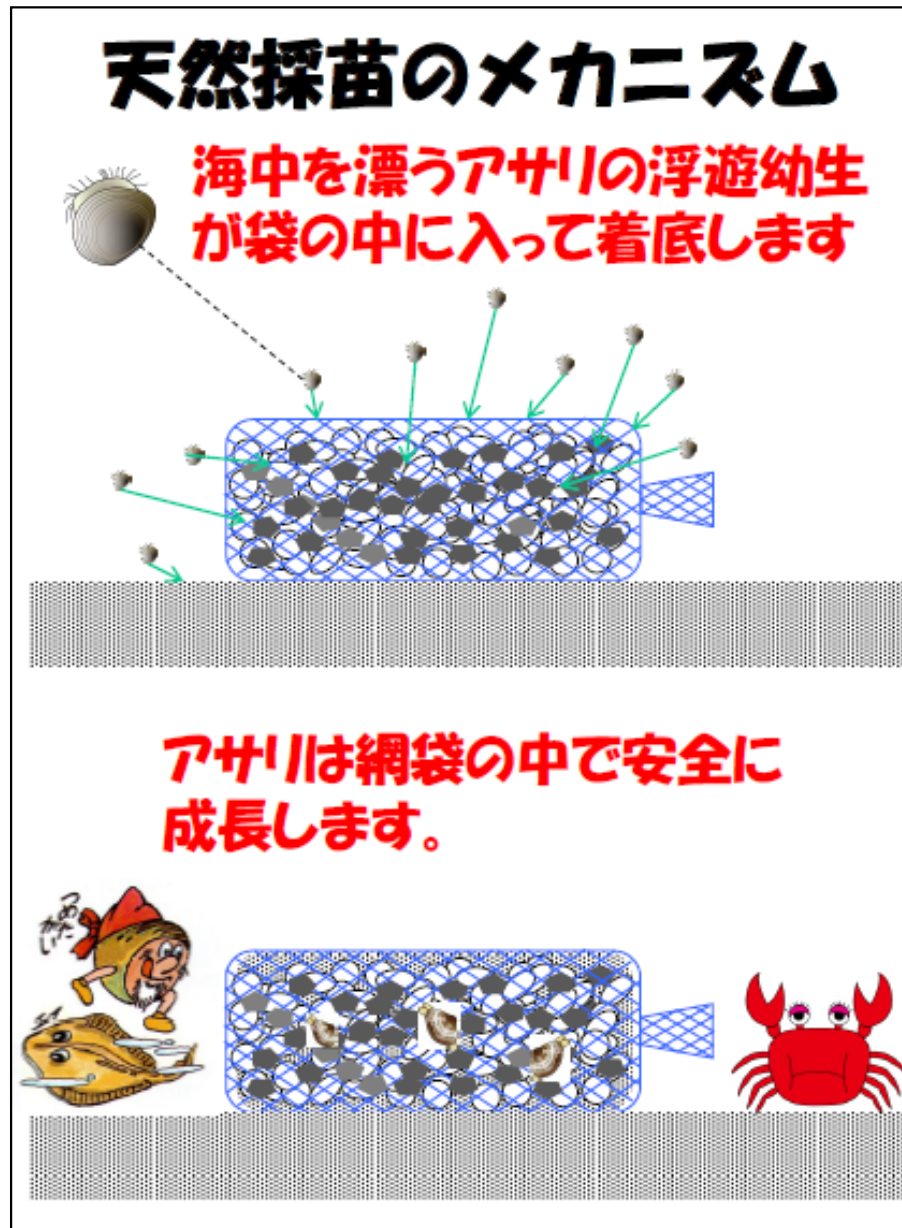
放流状況



移殖放流の主な採捕、放流場所

2 . 増殖策

4) 天然採苗 (産卵母貝の確保)



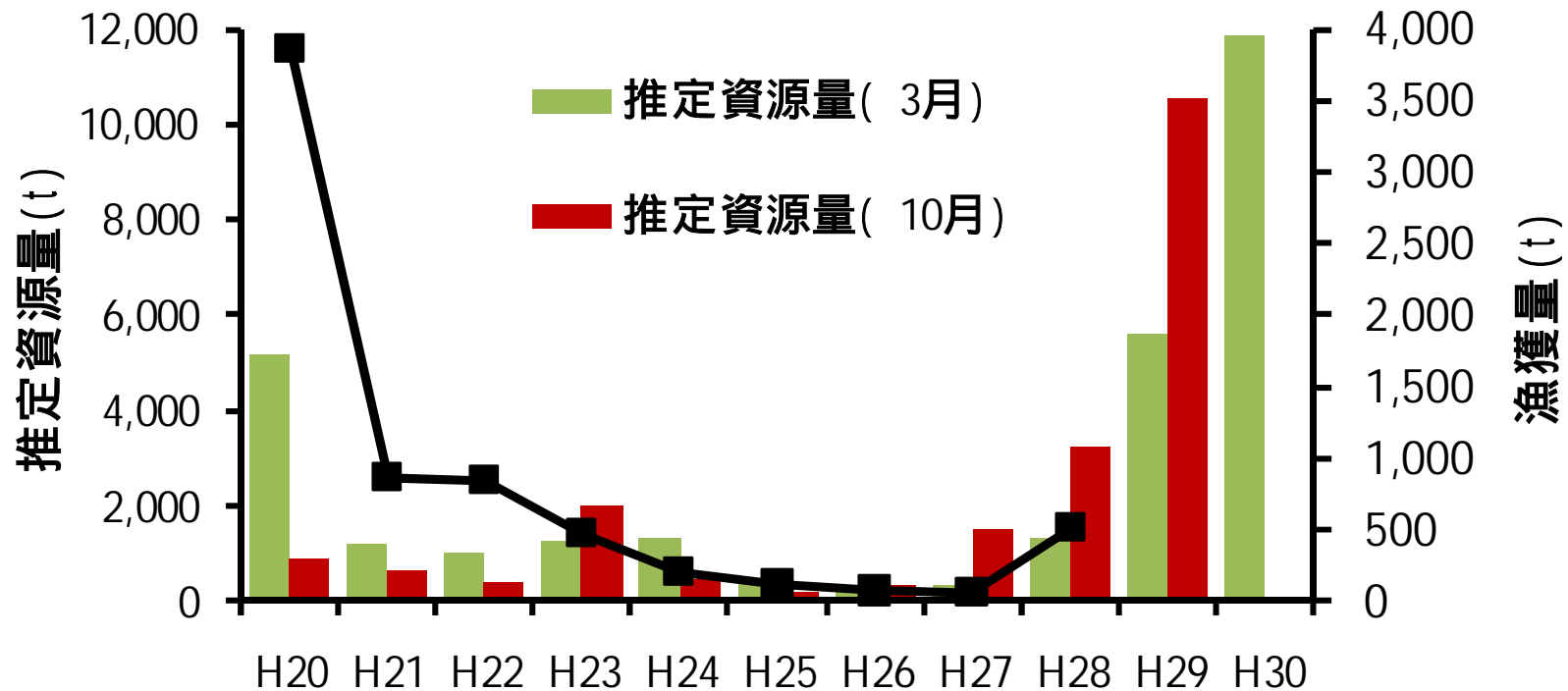
・着底基質

網袋に砂利 (5 kg) を入れ干潟に設置
着底基質の設置により採苗効果を確認し、さらに埋没対策により採苗効果が向上
(対照区の2.2倍)



二重底プレート により埋没防止

福岡県有明海区における アサリ増殖の取組成果

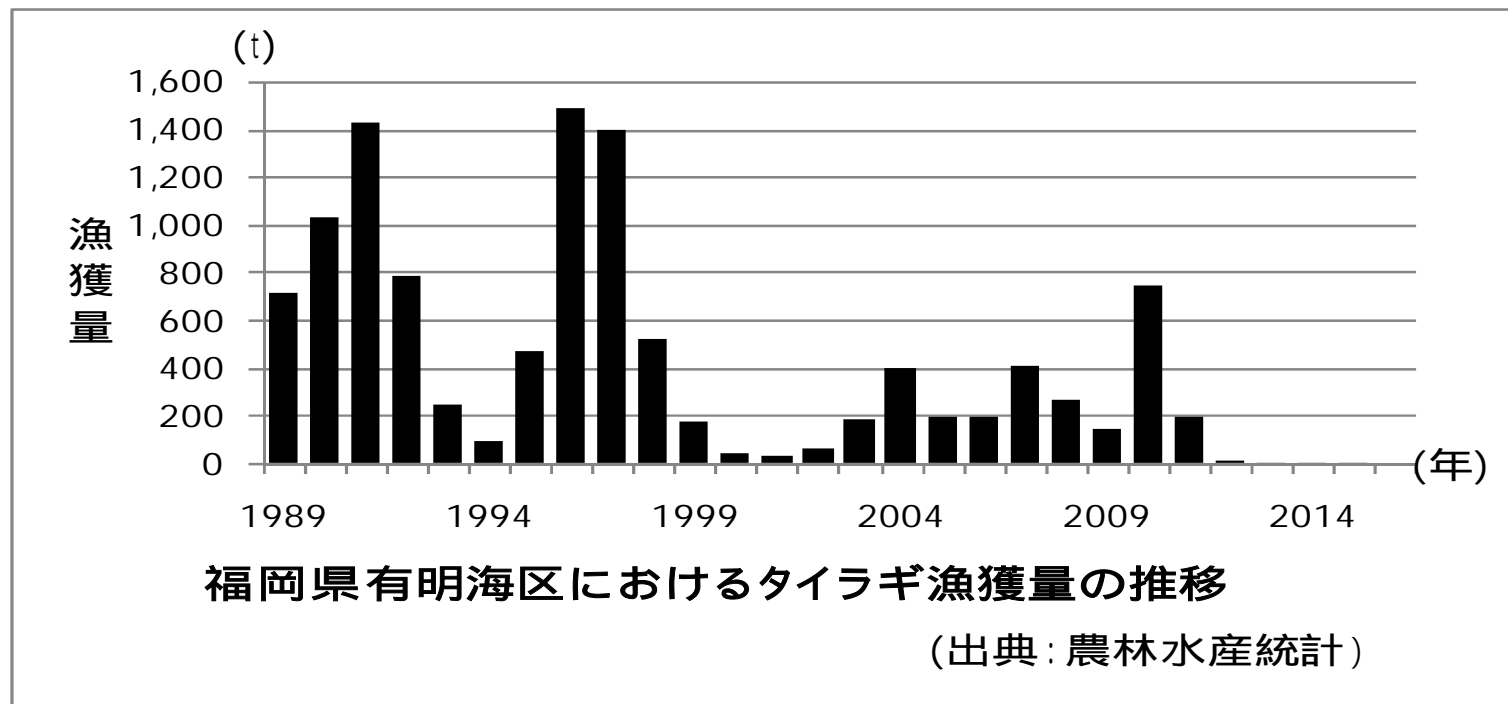


平成30年3月の推定資源量は11,844tに増加

福岡県有明海区における タイラギ増殖の取組

資源の現状

浮遊幼生と着底稚貝が極めて少なく、着底後も食害や立ち枯れへい死等により減耗するため、資源も低位で推移し、漁獲まで至っていない
資源回復のための産卵母貝数の確保が必要



増殖技術開発

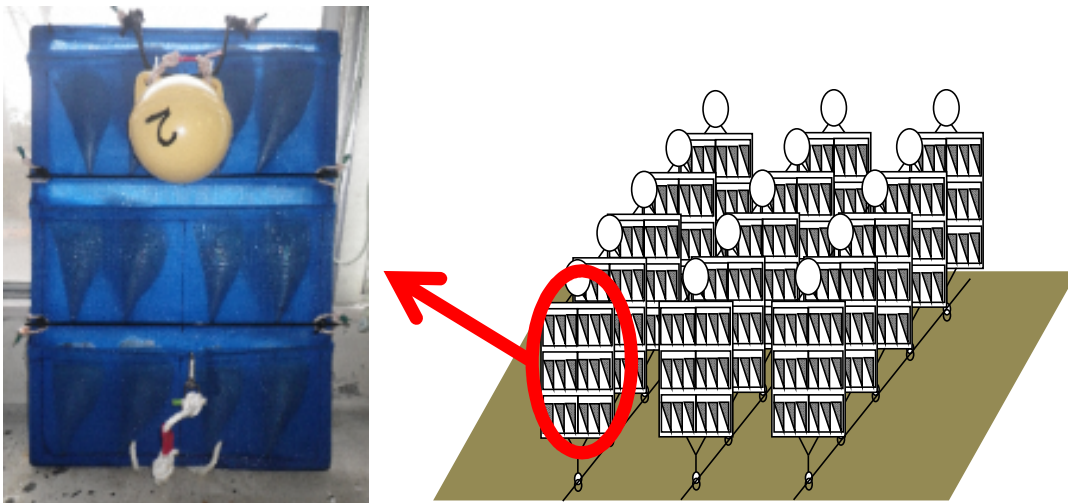
1) 母貝団地造成技術開発

食害防止技術の開発

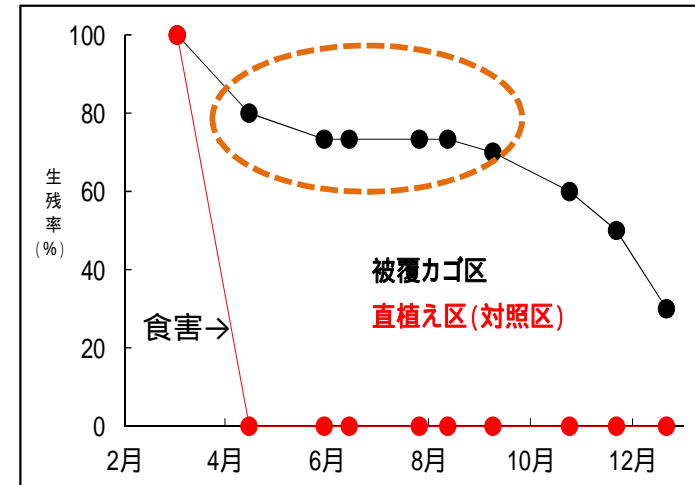
- ・被覆カゴによりタイラギ稚貝を保護することで春から夏の食害を防止

産卵母貝の保護・育成場造成技術の開発

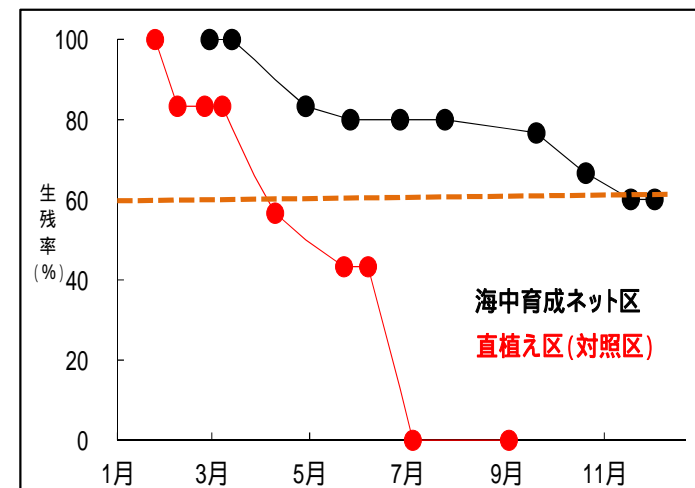
- ・海中育成ネット方式で母貝を育成すると春～冬までの立ち枯れへい死を抑制
- ・海中育成ネット区で、7～8月に成熟、産卵を確認



海中育成ネット



被覆カゴによる食害防止効果



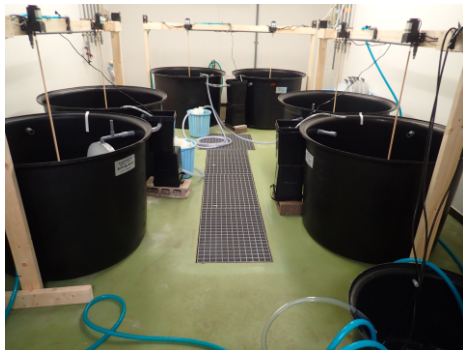
海中育成ネットによる斃死抑制

増殖技術開発

2) 人工種苗生産技術開発及び中間育成技術の開発

- ・ 水研機構の指導により種苗生産及び中間育成技術開発中

人工種苗生産



水産海洋技術センターで種苗生産

中間育成

殻長2 ~ 10cm



垂下カゴで育成

殻長10cm ~



海中育成ネットで母貝団地へ

母貝団地

